

# 豆 狸 の 寝 言

副会長 三原幸二

いま、『国家の品格』（藤原正彦著）という本が売れているらしい。  
そこで、「品格」という字を辞書で引いてみると、

①物の良し悪しの程度。しながら。

②品位、気品。

と載っていた。

「しながら」（品柄）という字を調べてみると、

①品物の性質のよしあし。品質。

と載っている。

「品位」という字を調べると、

①人に自然にそなわっている人格的価値。

ひん、品格。

②金銀の地金または金銀貨に含まれる金および銀の割合

③鉱石中に含まれる有用成分の割合。

と載っている。

「品（ひん）」という字をひいてみると、

①しな。しなもの「商品。作品。品質。」

②たぐい。種類。「品種。品目。品詞。」

③人や物にそなわる（好ましい）様子。風格。くらい。人がら。

④物のよしあしを定めること。（品茶。品評。）

こうしてみていくと、品格というのは人間形成には欠かせない大事な要素の一つであることがわかる。



人間だけでなく、物品でも、そのものの形、材質などに品があるのとないのとでは格段の見ばえの差があるのは当然だと思う。

食物の食べ方、衣類の着方、住まいの仕方、人さんとの付き合い、遊び方、商売の仕方、等々。品格の持ちようで一流にもなれるし二流、三流に下落することにもなりかねない。

多くの日本人が自信を失い、思いやりの情を忘れてしまっている今、品格ということに焦点をあて論じる人がいらっしゃるのはなんとも心強く、うれしく思う次第です。

願わくば、その品の違いが判別できる品格を持ち合わせたいものである。

(品格) 2006 年執筆